

ひらしか

第4回 景気動向レポート

2012年10～12月期

【概要】

調査時期 平成24年12月上旬
調査地域 平塚市、厚木市、相模原市、大和市、伊勢原市、秦野市、座間市、海老名市、茅ヶ崎市、高座郡、愛甲郡

全調査先 当金庫取引先 319先
回答先数 当金庫取引先 301先
(内訳) 製造業:58先
卸売業:19先
小売業:43先
サービス業:71先
建設業:82先
不動産業:28先

回答率 94.4%

【調査方法】

当金庫職員による面接聞き取り方式、または、調査先による直接記入・回収方式

【分析方法】

DI(Diffusion Index)

DIとは、各質問項目に対して「良い(増加・上昇)」と回答された企業の割合から「悪い(減少・下降)」と回答された企業の割合を差引いて算出した指標です。

DIがプラスであれば上向き、0であれば現状維持、マイナスであれば下向きというように判断できます。

業況DIの推移(業種別)

	2012年 1-3月期	2012年 4-6月期	2012年 7-9月期 (前期)	2012年 10-12月期 (当期)	2013年 1-3月期 (予想)
製造業	0.0	↘ ▲ 13.3	↘ ▲ 26.7	↗ ▲ 24.1	↘ ▲ 31.0
卸売業	0.0	→ 0.0	↘ ▲ 5.3	→ ▲ 5.3	↘ ▲ 10.5
小売業	▲ 6.5	↘ ▲ 6.8	↗ ▲ 2.3	↗ 4.7	↘ ▲ 11.6
サービス業	4.2	↗ 7.4	↗ 15.9	↘ 5.6	↘ ▲ 2.8
建設業	10.6	↘ ▲ 7.5	↗ 9.0	↗ 14.6	↘ 8.5
不動産業	17.2	↗ 25.9	↘ ▲ 6.9	↘ ▲ 14.3	↗ 0.0
全業種	4.5	↘ ▲ 1.7	↗ ▲ 0.7	↗ ▲ 0.3	↘ ▲ 6.7

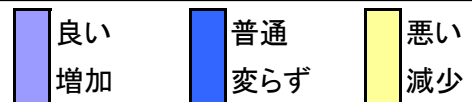
全 業 種

2012年10～12月期の業況DIは、対前期比+0.4ポイントの▲0.3と僅かな改善にとどまりました。業種別に業況DIを見ると、サービス業・不動産業で悪化、製造業・小売業・建設業で改善となり、全業種では小幅ながら2期連続での改善となりました。

また、売上DIは、対前期比▲2.1ポイントの6.6と3期ぶりの悪化となったほか、収益DIは、対前期比+1.9ポイントの7.3と3期連続の改善となりました。その他のDIでは、販売(料金・請負)価格DIは対前期比▲1.0ポイントの▲5.0、仕入(原材料・材料)価格DIは対前期比+4.6ポイントの11.7、資金繰りDIは対前期比▲2.7ポイントの▲5.7となりました。

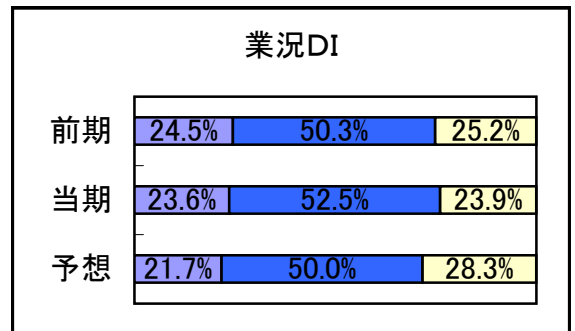
来期(2013年1～3月期)の予想では、不動産業を除く5業種で業況DIの悪化が見込まれており、全業種での業況DIは対当期比▲6.4ポイントの▲6.7と悪化を見込んでいます。

主要DI構成



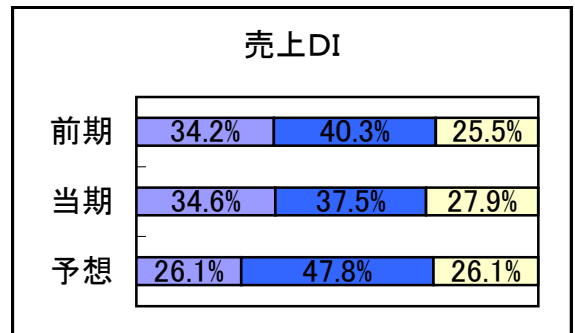
【業況DI】

業況DIは、対前期比+0.4ポイントの▲0.3となりました。サービス業が3期ぶりの悪化となったほか、不動産業も悪化となりました。一方、小売業では3期連続でマイナスであった業況DIがプラスに転じたほか、製造業・建設業でも改善となり全業種では2期連続での改善となりました。今後の業況DIは、対当期比▲6.4ポイントの▲6.7と悪化を見込んでいます。



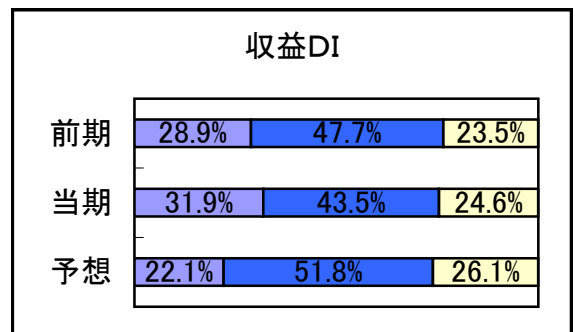
【売上DI】

売上DIは、対前期比▲2.1ポイントの6.6となりました。建設業で3期連続での大幅な改善となったほか、製造業・小売業でも改善となりました。一方、卸売業・サービス業・不動産業がともに大幅な悪化となり、全業種では3期ぶりの悪化となりました。昨年同期比売上額判断DIは、対前期比▲0.7ポイントの6.7で、今後の売上DIは、対当期比▲6.6ポイントの0.0と悪化を見込んでいます。

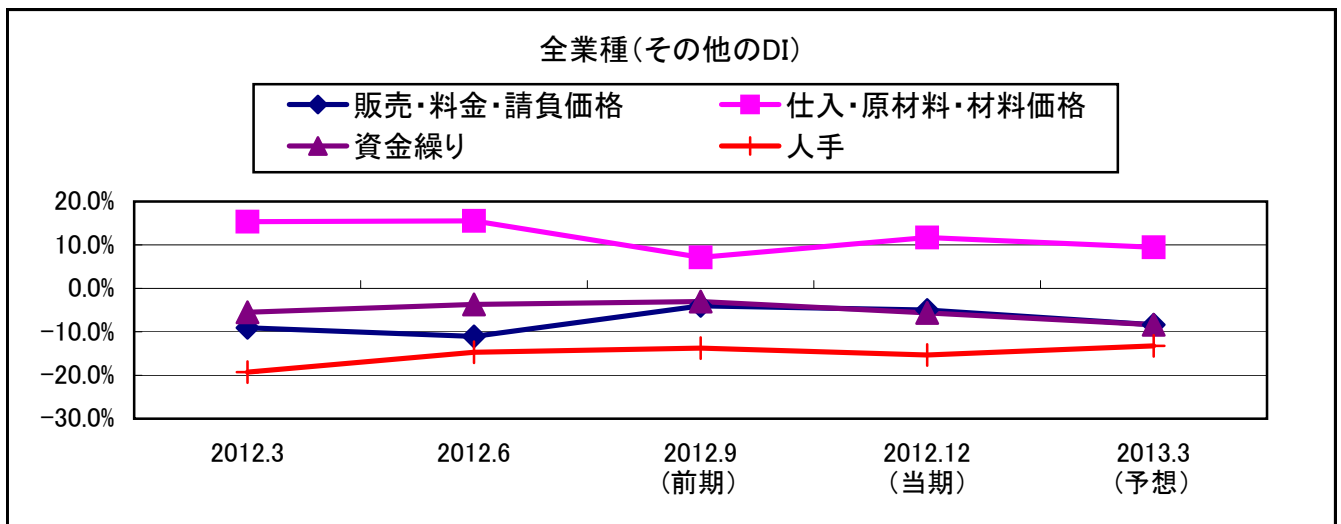
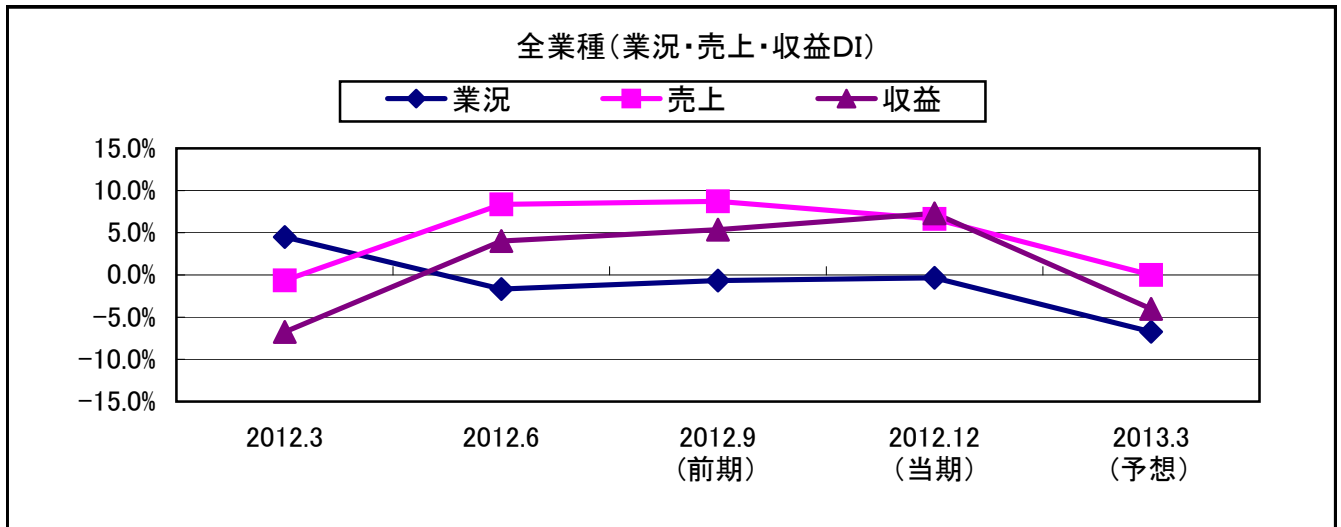


【収益DI】

収益DIは、対前期比+1.9ポイントの7.3となりました。卸売業が大幅な悪化となったほか、サービス業でも悪化となりました。一方、製造業では3期ぶりの改善となったほか、小売業・建設業・不動産業でも改善となり、全業種では3期連続での改善となりました。昨年同期比収益判断DIは、対前期比▲6.7ポイントの▲1.0で、今後の収益DIは、対当期比▲11.3ポイントの▲4.0と大幅な悪化を見込んでいます。



DIの推移



このマークをご存知ですか？



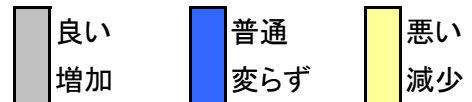
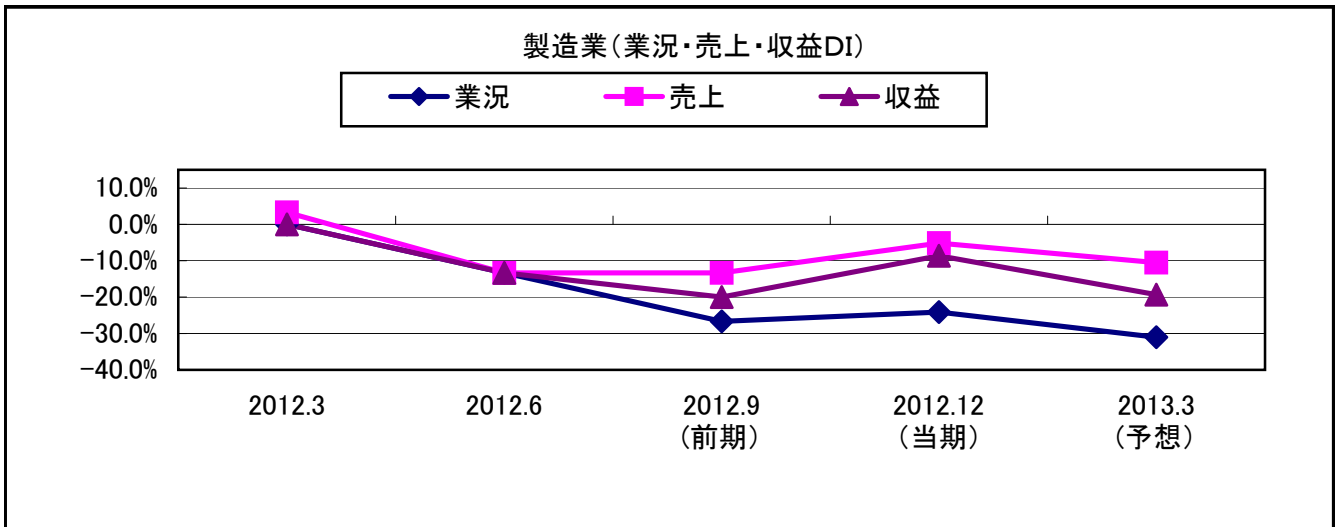
当金庫は、平成24年11月15日に創立80周年を迎えました。

『おかげさまで80周年』というお客さまへの感謝の気持ちを表現したこのロゴマークは、ポスターや職員証・名刺といった様々なところに掲示されています。

次の90周年さらには100周年へ向けて、「いつもあなたのとりに～街のベストパートナー“ひらしん”～」という基本姿勢のもと、これからも「地元になくはない信用金庫」の実現を目指してまいります。

製造業

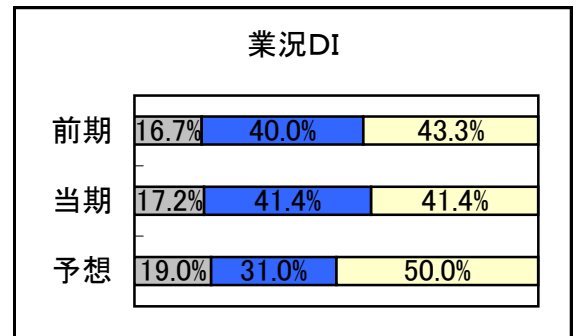
主要DI推移



主要DI構成

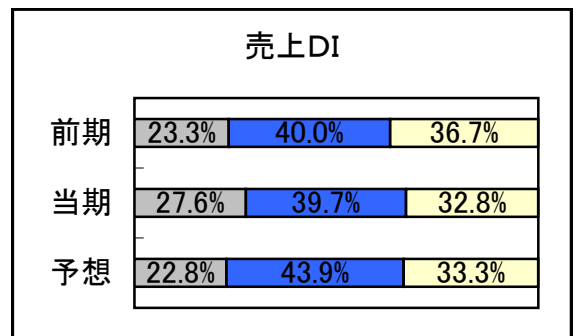
【業況DI】

業況DIは、対前期比+2.6ポイントの▲24.1となりました。震災以降冷え込んでいた設備投資に持ち直しが見られるなど、売上DI及び昨年同期比売上額判断DIが上昇したことから3期ぶりの改善となったようです。しかし、自動車や半導体関連が低調なことや輸出の減少・原材料価格の上昇といった下降マインドも根強く、今後の業況DIは、対当期比▲6.9ポイントの▲31.0と悪化を見込んでいます。



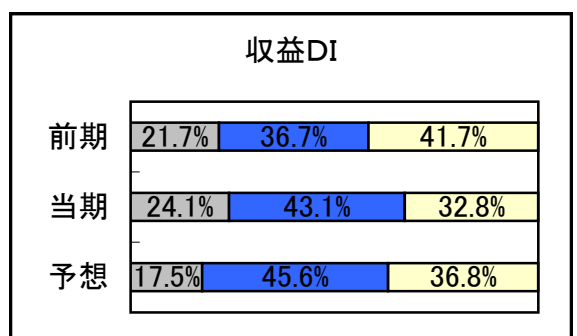
【売上DI】

売上DIは、対前期比+8.1ポイントの▲5.2となりました。受注残DI及び販売価格DIが若干低下したものの、昨年同期比売上額判断DIが上昇し売上DIについても3期ぶりの改善となったようです。一方、今後は受注残DI・販売価格DIがともに低下する見込みとなっており、売上DIも、対当期比▲5.3ポイントの▲10.5と悪化を見込んでいます。

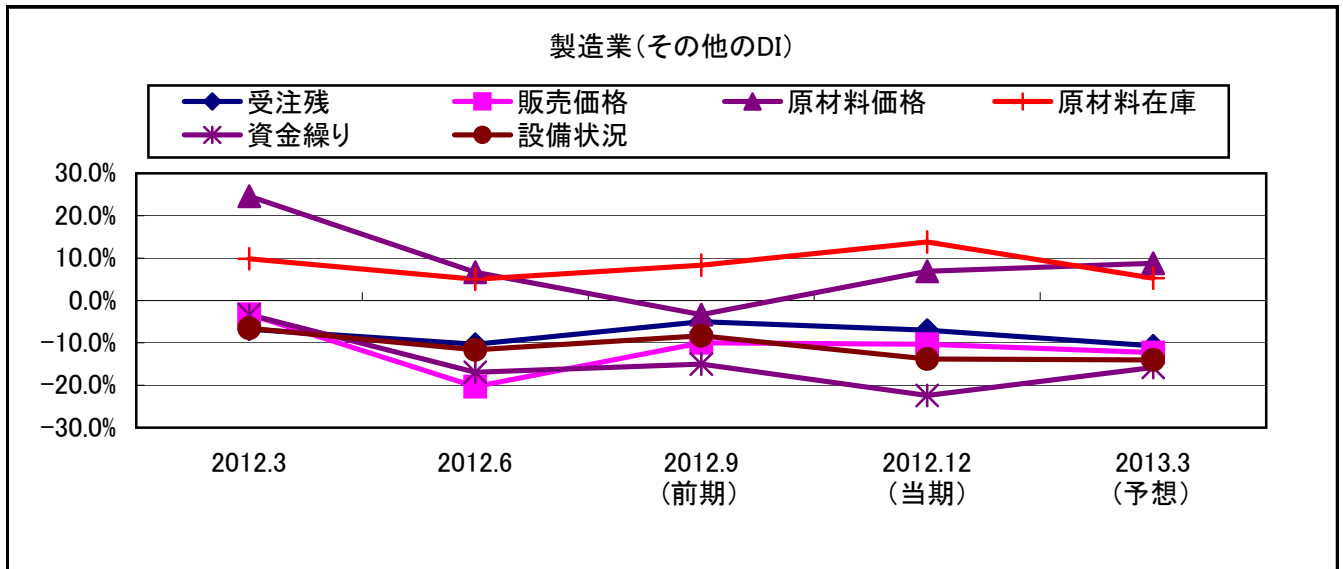


【収益DI】

収益DIは、対前期比+11.4ポイントの▲8.6となりました。売上DIが上昇したことから、収益DIについても3期ぶりの改善となったようです。一方、原材料価格DIが3期ぶりに上昇するとともに昨年同期比収益判断DIが低下しており依然として収益への圧迫感が拭えず、今後の収益DIは、対当期比▲10.7ポイントの▲19.3と悪化を見込んでいます。



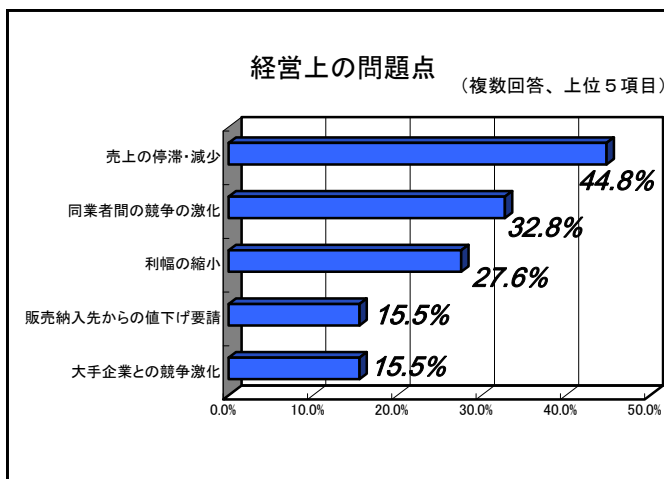
その他のDI推移



【その他のDI】

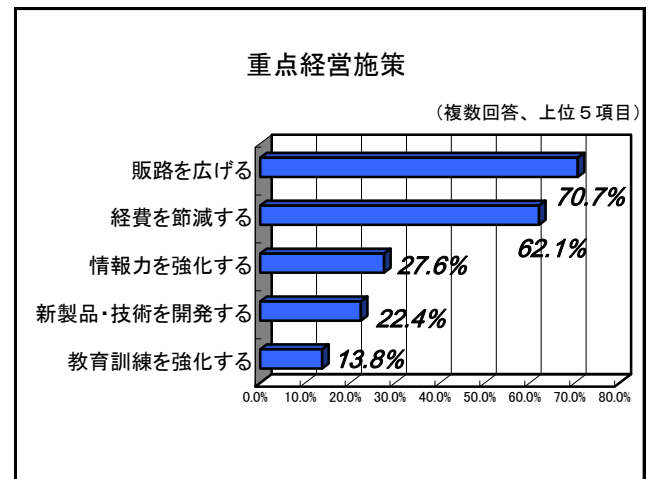
対前期比でみると、受注残DIは▲2.0ポイントの▲7.0、販売価格DIは▲0.3ポイントの▲10.3、原材料価格DIは+10.2ポイントの6.9、原材料在庫DIは+5.5ポイントの13.8、資金繰りDIは▲7.4ポイントの▲22.4、設備状況DIは▲5.5ポイントの▲13.8となりました。今後は、原材料価格DI・資金繰りDIで上昇を見込んでいる一方で、受注残DI・販売価格DI・原材料在庫DI・設備状況DIでは低下を見込んでいます。

経営課題・重点施策



【経営課題】

経営上の問題点として挙げられたのは「売上の停滞・減少」が44.8%と最も多く、次いで「同業者間の競争の激化」32.8%、「利幅の縮小」27.6%、「販売納入先からの値下げ要請」「大手企業との競争激化」ともに15.5%の順番となりました。

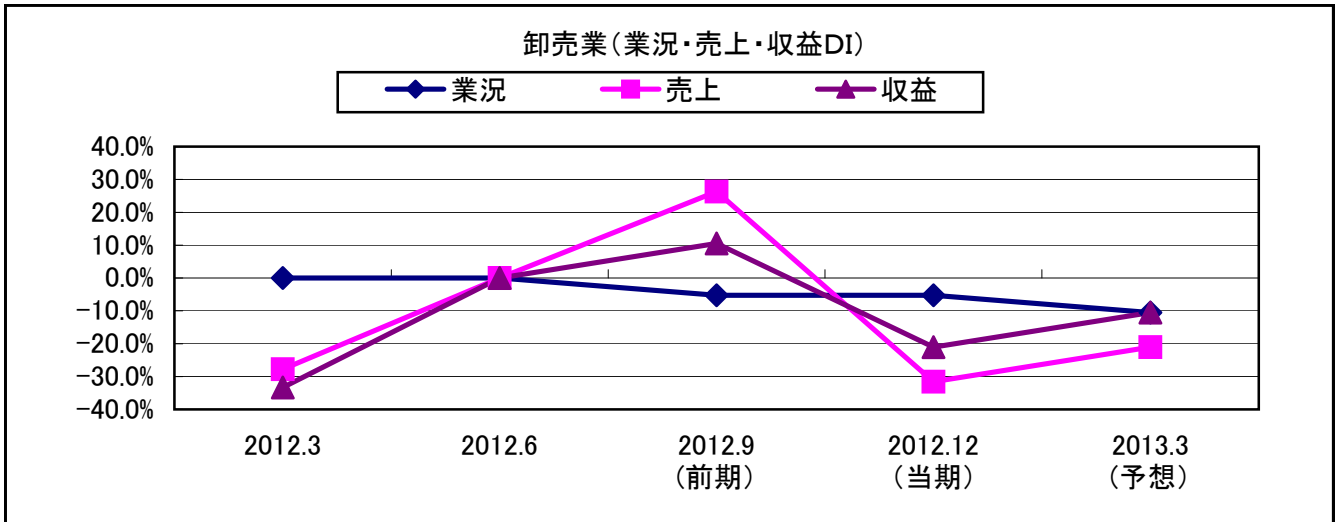


【重点施策】

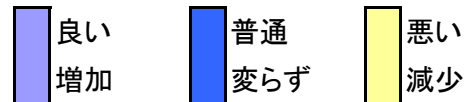
当面の重点経営施策として挙げられたのは「販路を広げる」が70.7%と最も多く、次いで「経費を節減する」62.1%、「情報力を強化する」27.6%、「新製品・技術を開発する」22.4%、「教育訓練を強化する」13.8%の順番となりました。

卸売業

主要DI推移

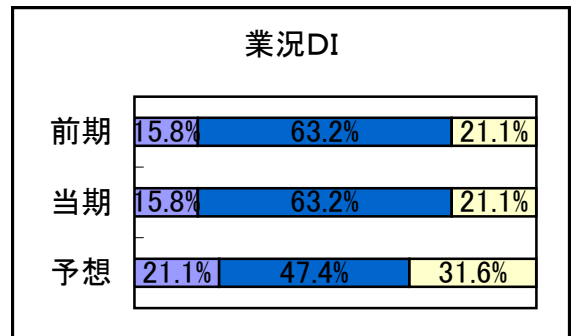


主要DI構成



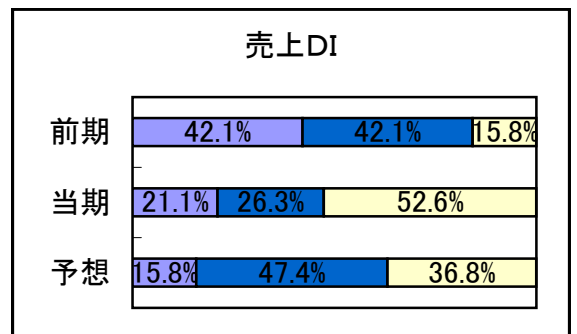
【業況DI】

業況DIは、対前期比±0.0ポイントの▲5.3となりました。売上DI及び収益DIがともに大幅に低下するとともに、同業者間での競争激化といった背景からマインドが低下している一方で、建築金物といった取扱い品目によっては順調推移している先もあることから、卸売業全体の景況感としては横ばいとなったようです。今後の業況DIは、対当期比▲5.2ポイントの▲10.5と悪化を見込んでいます。



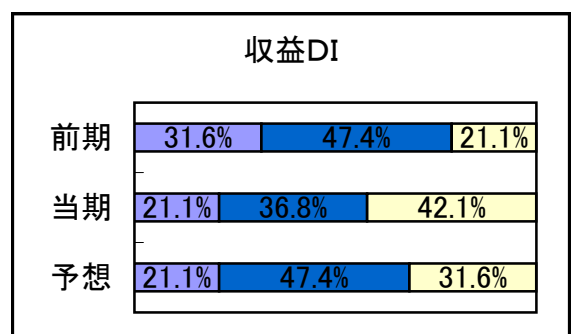
【売上DI】

売上DIは、対前期比▲57.9ポイントの▲31.6となりました。去年同期比売上額判断DI・去年同期比販売価格判断DI及び販売価格DIがいずれも低下したことから、売上DIについても3期ぶりの大幅悪化となったようです。一方、今後の販売価格DIは横ばいを見込んでおり、売上DIは対当期比+10.5ポイントの▲21.1と大幅な改善を見込んでいます。

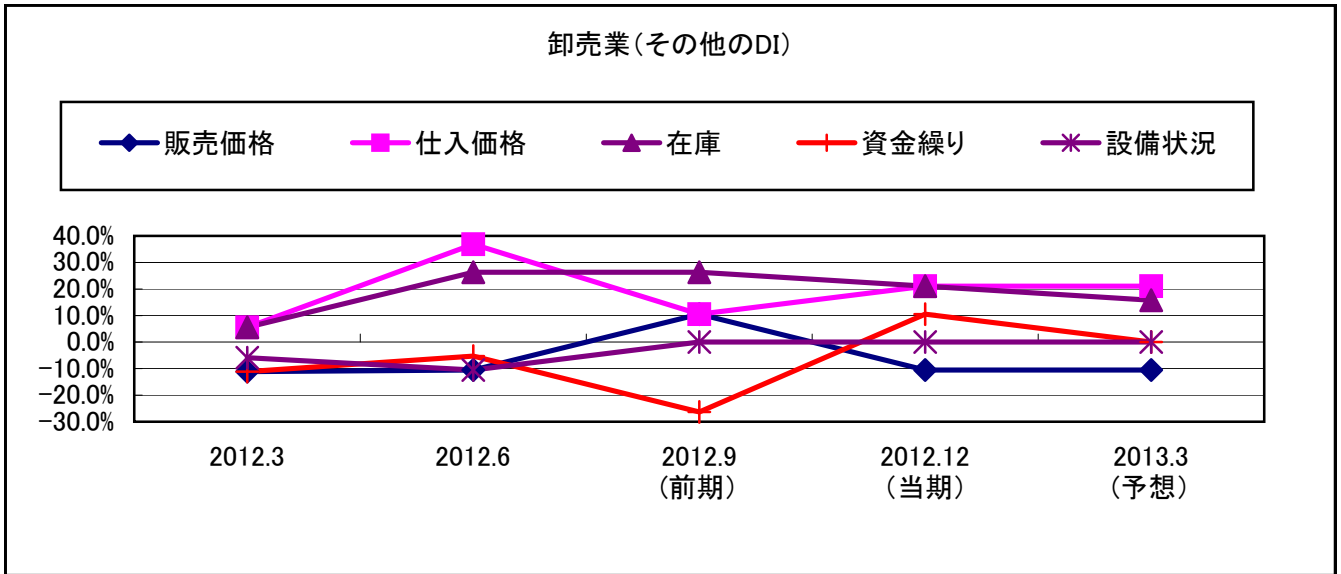


【収益DI】

収益DIは、対前期比▲31.6ポイントの▲21.1となりました。売上DI及び販売価格DIがともに3期ぶりの大幅な低下となるとともに、仕入価格DIが上昇したことから収益DIについても3期ぶりの大幅悪化となったようです。今後は、販売価格DI・仕入価格DIがともに横ばいを見込んでおり、今後の収益DIについては、対当期比+10.6ポイントの▲10.5と大幅な改善を見込んでいます。



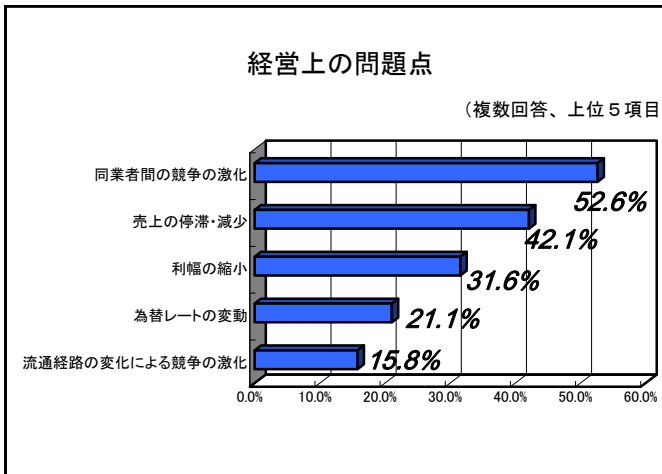
その他のDI推移



【その他のDI】

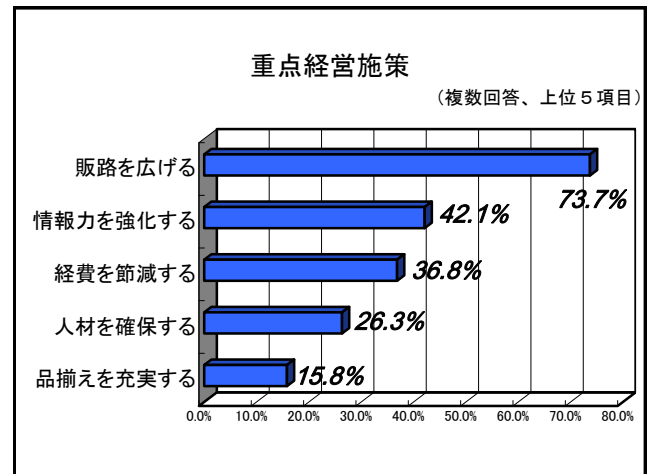
対前期比でみると、販売価格DIは▲21.0ポイントの▲10.5、仕入価格DIは+10.6ポイントの21.1、在庫DIは▲5.2ポイントの21.1、資金繰りDIは+36.8ポイントの10.5、設備状況DIは±0.0ポイントの0.0となりました。今後は、販売価格DI・仕入価格DI・設備状況DIでは横ばい、在庫DI・資金繰りDIでは低下を見込んでいます。

経営課題・重点施策



【経営課題】

経営上の問題点として挙げられたのは「同業者間の競争の激化」が52.6%と最も多く、次いで「売上の停滞・減少」42.1%、「利幅の縮小」31.6%、「為替レートの変動」21.1%、「流通経路の変化による競争の激化」15.8%の順番となりました。

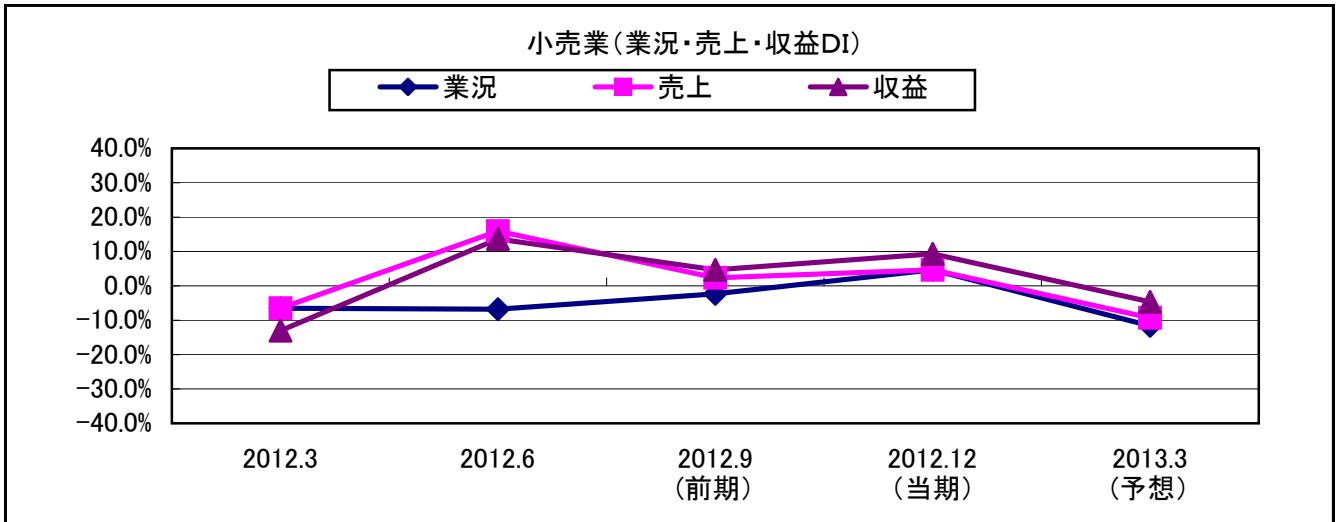


【重点施策】

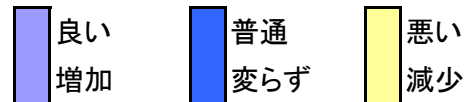
当面の重点経営施策として挙げられたのは「販路を広げる」が73.7%と最も多く、次いで「情報力を強化する」42.1%、「経費を節減する」36.8%、「人材を確保する」26.3%、「品揃えを充実する」15.8%の順番となりました。

小 売 業

主要DI推移



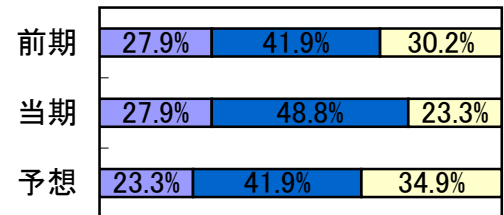
主要DI構成



【業況DI】

業況DIは、対前期比+7.0ポイントの4.7となりました。大型量販店の出店や消費税増税といった懸念事項が多い中、建築資材等が堅調に推移しているほか、12月がボーナス支給月であったことも影響してか売上DI及び収益DIがともに上昇し、業況DIも2期連続での改善となったようです。一方、今後の業況DIは、対当期比▲16.3ポイントの▲11.6と大幅な悪化を見込んでいます。

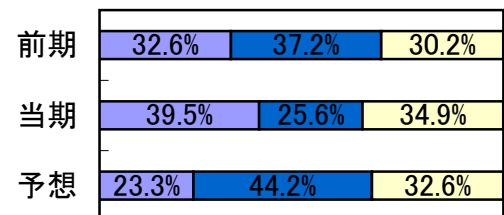
業況DI



【売上DI】

売上DIは、対前期比+2.4ポイントの4.7となりました。去年同期比売上額判断DIは低下したものの、去年同期比販売価格判断DIは横ばい、販売価格DIが上昇となったことから売上DIについても改善となったようです。一方、今後は、販売価格DIが大幅に低下する見込みとなっており、売上DIは、対当期比▲14.0ポイントの▲9.3と大幅な悪化を見込んでいます。

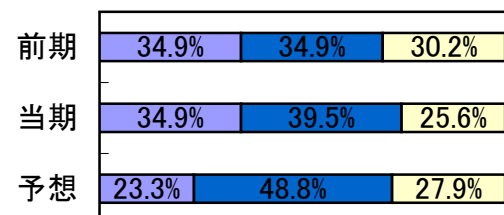
売上DI



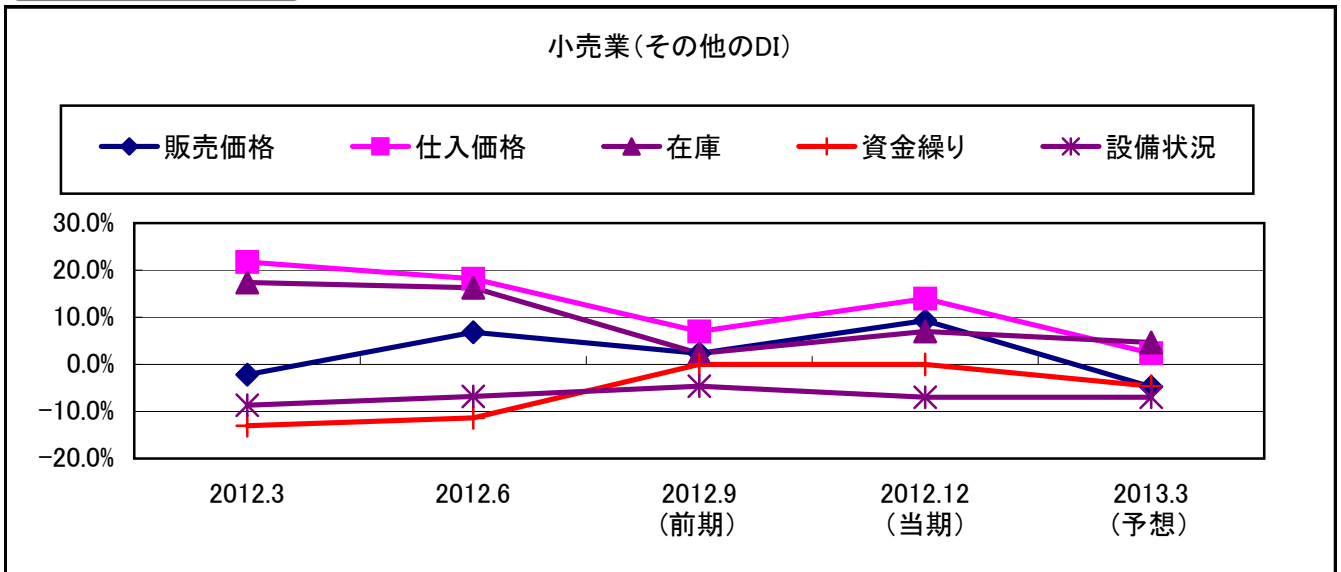
【収益DI】

収益DIは、対前期比+4.6ポイントの9.3となりました。去年同期比収益判断DIが低下、仕入価格DIが上昇した一方で、売上DI及び販売価格DIが上昇したことから収益DIについても改善となったようです。一方、今後は、売上DI及び販売価格DIの低下が見込まれており、収益DIも対当期比▲14.0ポイントの▲4.7と大幅な悪化を見込んでいます。

収益DI



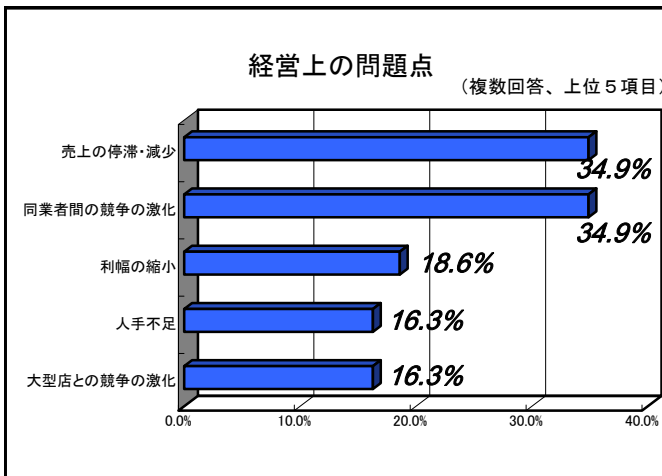
その他のDI推移



【その他のDI】

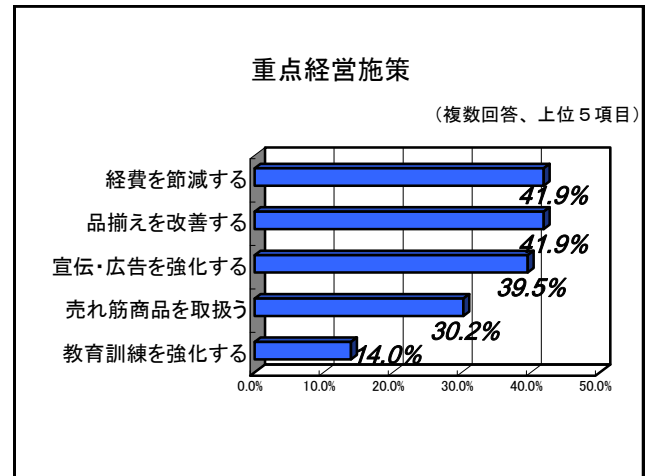
対前期比でみると、販売価格DIは+7.0ポイントの9.3、仕入価格DIは+7.0ポイントの14.0、在庫DIは+4.7の7.0、資金繰りDIは±0.0の0.0、設備状況DIは▲2.3ポイントの▲7.0となりました。今後は、設備状況DIは横ばい、販売価格DI・仕入価格DI・在庫DI・資金繰りDIでは低下を見込んでいます。

経営課題・重点施策



【経営課題】

経営上の問題点として挙げられたのは「売上の停滞・減少」「同業者間の競争の激化」がともに34.9%と最も多く、次いで「利幅の縮小」18.6%、「人手不足」「大型店との競争の激化」とともに16.3%の順番となりました。

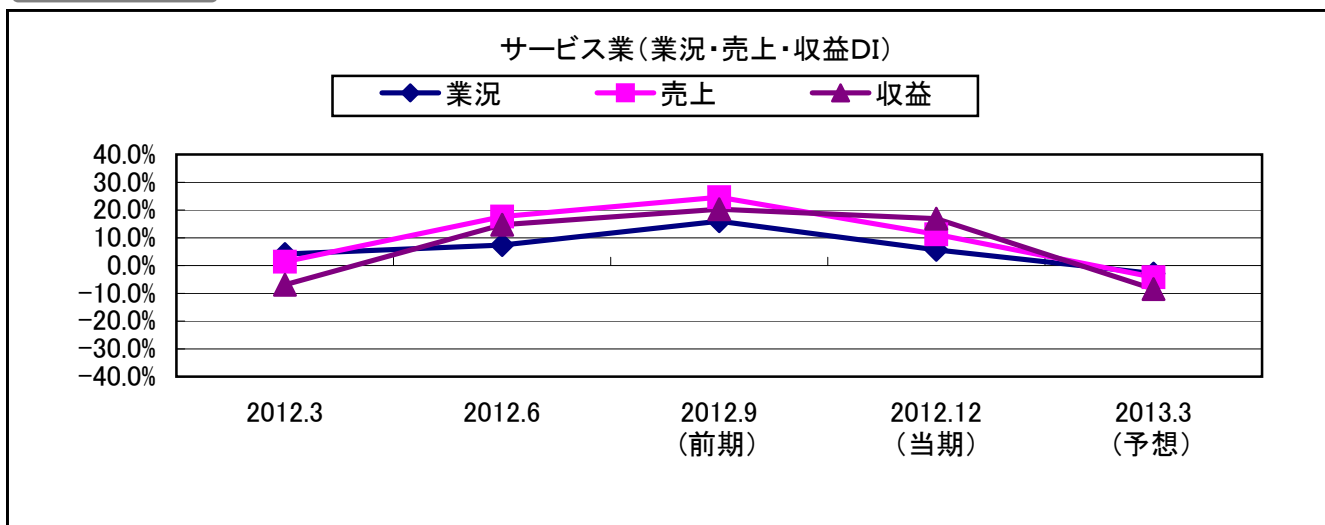


【重点施策】

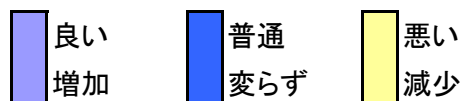
当面の重点経営施策として挙げられたのは「経費を節減する」「品揃えを改善する」がともに41.9%と最も多く、次いで「宣伝・広告を強化する」39.5%、「売れ筋商品を取扱う」30.2%、「教育訓練を強化する」14.0%の順番となりました。

サービス業

主要DI推移

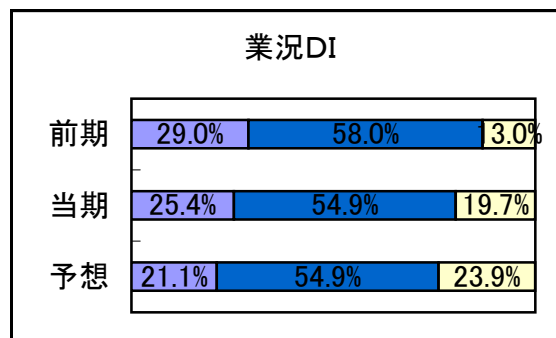


主要DI構成



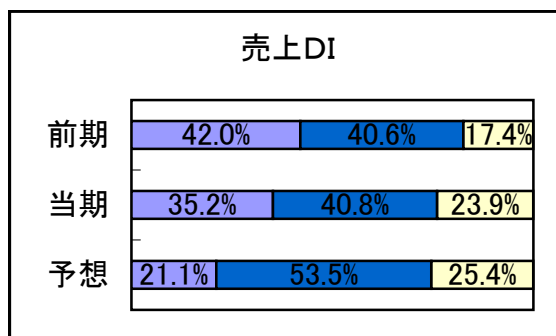
【業況DI】

業況DIは、対前期比▲10.3ポイントの5.6となりました。取扱い業務によって業況にバラツキがあるものの全体的に個人消費が弱いことから低価格競争が激しい先が多く、売上DI及び収益DIがともに3期ぶりに低下したことから、業況DIについても3期ぶりの大幅な悪化となったようです。先行き不透明感も継続しており、今後の業況DIは、対当期比▲8.4ポイントの▲2.8と悪化を見込んでいます。



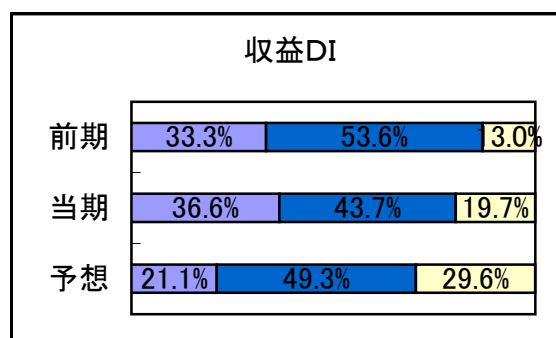
【売上DI】

売上DIは、対前期比▲13.3ポイントの11.3となりました。料金価格DIが小幅上昇したものの、経営上の問題点として同業者間の競争の激化を挙げる声も多く、また、昨年同期比売上額判断DIが低下していることから売上DIは3期ぶりの大幅な悪化となりました。今後の売上DIは、対当期比▲15.5ポイントの▲4.2と大幅な悪化を見込んでいます。

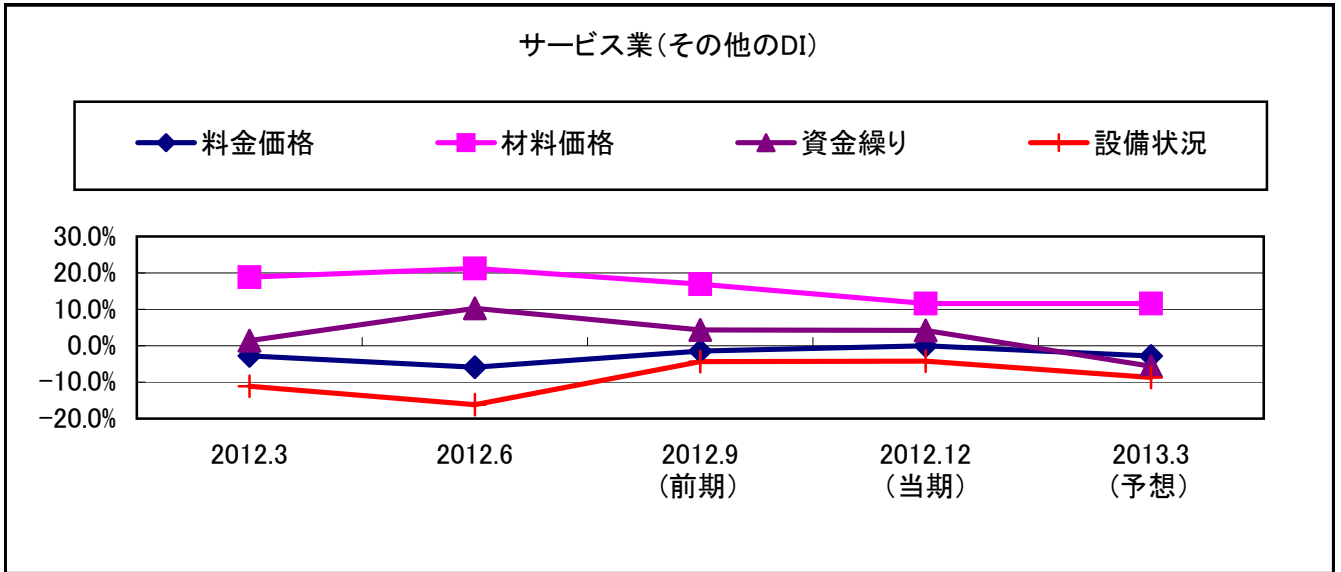


【収益DI】

収益DIは、対前期比▲3.4ポイントの16.9となりました。売上DIが大幅に低下するとともに、低価格競争となる一方で人件費の増加を懸念する先も多く、収益DIは3期ぶりの悪化となったようです。今後の収益DIは、対当期比▲25.4ポイントの▲8.5と大幅な悪化を見込んでいます。



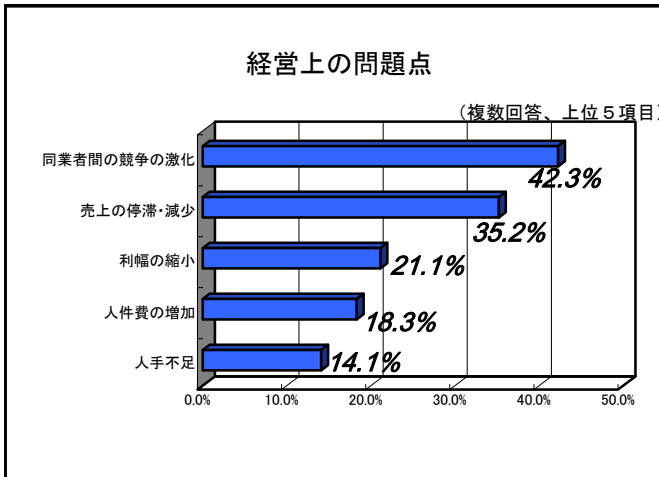
その他のDI推移



【その他のDI】

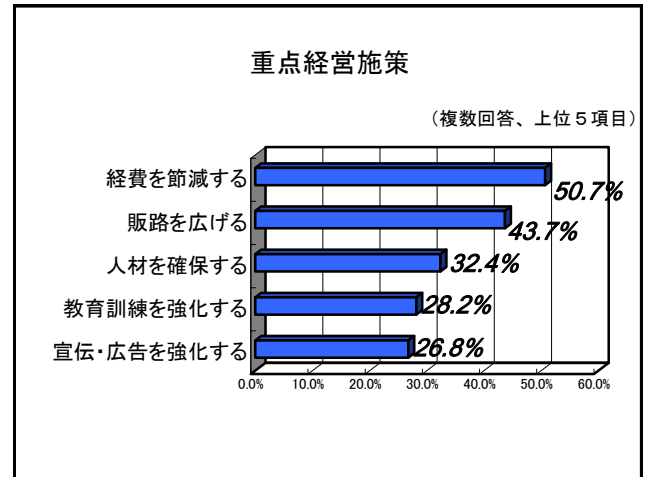
対前期比でみると、料金価格DIは+1.5ポイントの0.0、材料価格DIは▲5.3ポイントの11.6、資金繰りDIは▲0.2ポイントの4.2、設備状況DIは+0.2ポイントの▲4.2となりました。今後は、材料価格DIでは横ばい、料金価格DI・資金繰りDI・設備状況DIでは低下を見込んでいます。

経営課題・重点施策



【経営課題】

経営上の問題点として挙げられたのは「同業者間の競争の激化」が42.3%と最も多く、次いで「売上の停滞・減少」35.2%、「利幅の縮小」21.1%、「人件費の増加」18.3%、「人手不足」14.1%の順番となりました。

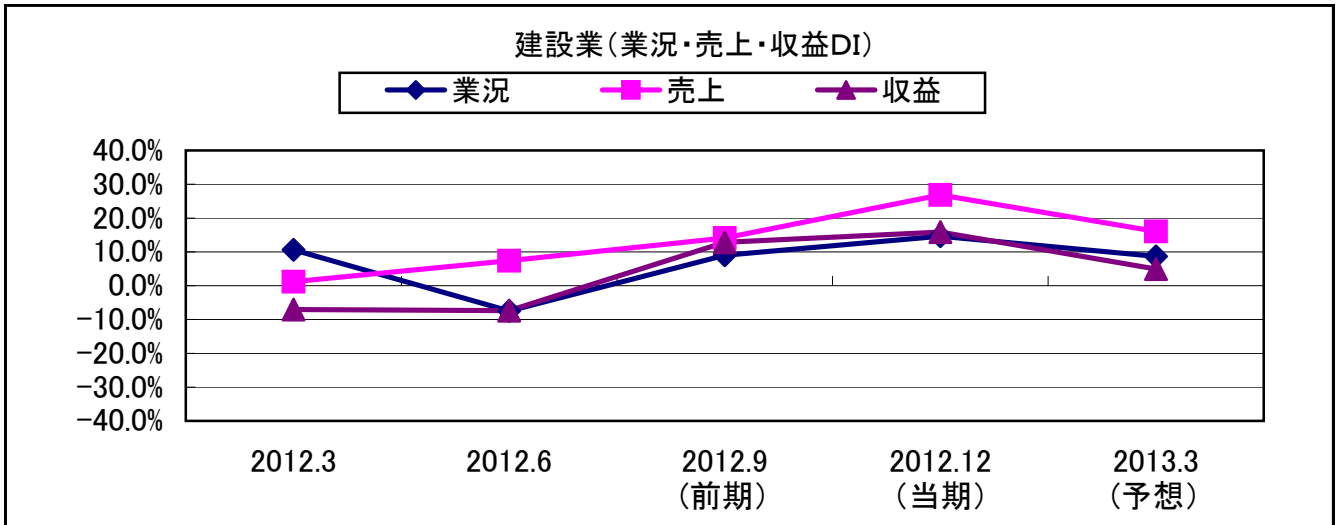


【重点施策】

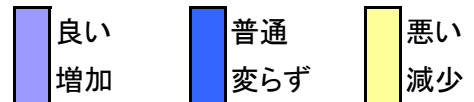
当面の重点経営施策として挙げられたのは「経費を節減する」が50.7%と最も多く、次いで「販路を広げる」43.7%、「人材を確保する」32.4%、「教育訓練を強化する」28.2%、「宣伝・広告を強化する」26.8%の順番となりました。

建設業

主要DI推移

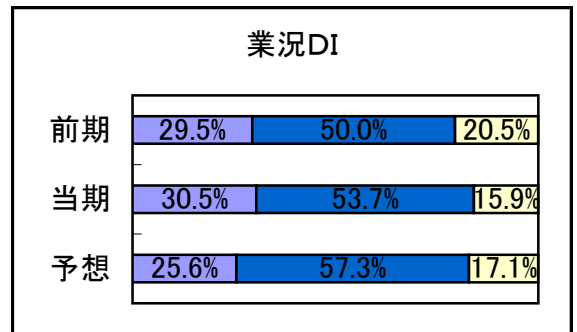


主要DI構成



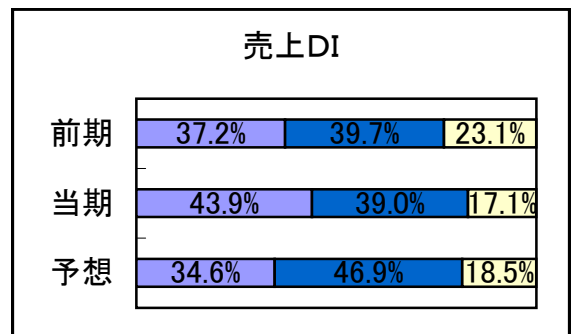
【業況DI】

業況DIは、対前期比+5.6ポイントの14.6となりました。年末の公共工事の増加もあってか受注確保が安定推移しており、2期連続での改善となりました。売上DI・受注残DI・施工高DIが大幅上昇となっているものの、競争激化に伴う請負価格の低下や建築資材の高騰等も懸念事項として挙げられていることから、大幅な改善マインドとまでは至らなかったようです。一方、今後の業況DIは、対当期比▲6.1ポイントの8.5と悪化を見込んでいます。



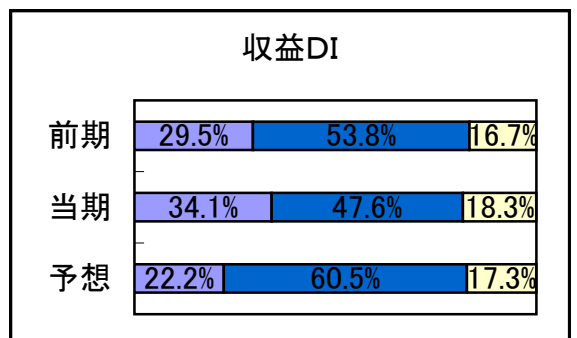
【売上DI】

売上DIは、対前期比+12.7ポイントの26.8となりました。昨年同期比売上額判断DI及び請負価格DIは低下したものの、受注残DI及び施工高DIが大幅に上昇しており3期連続での大幅改善となりました。一方、年度末までの公共工事受注に対するマインドにバラツキがあることから今後の受注残DI及び施工高DIはともに大幅低下が見込まれており、今後の売上DIについても対当期比▲10.7ポイントの16.1と大幅な悪化を見込んでいます。

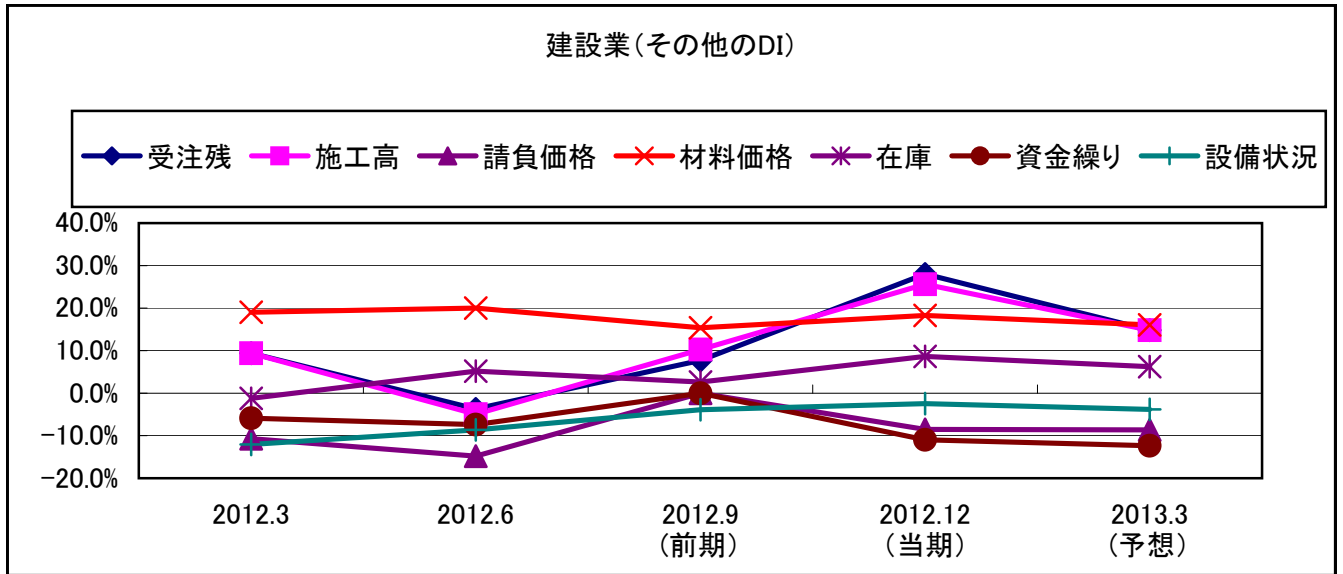


【収益DI】

収益DIは、対前期比+3.1ポイントの15.9と2期連続の改善となりました。大幅な上昇となった売上DIに比べて、材料価格DIの上昇及び昨年同期比収益判断DIの低下を要因として収益DIについては大幅な改善とまでは至らなかったようです。一方、今後の収益DIは、対当期比▲11.0ポイントの4.9と大幅な悪化を見込んでいます。



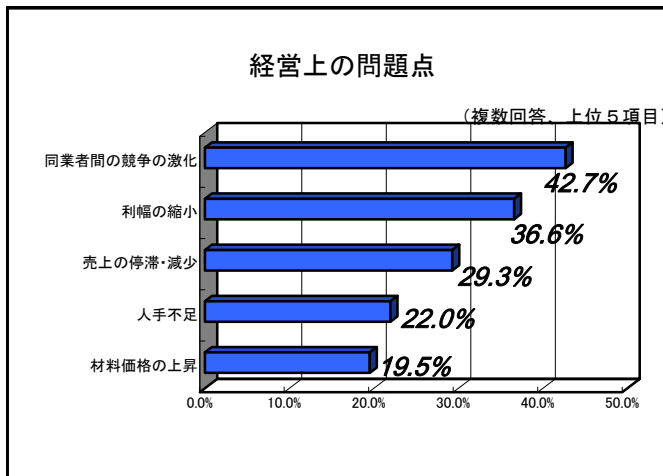
その他のDI推移



【その他のDI】

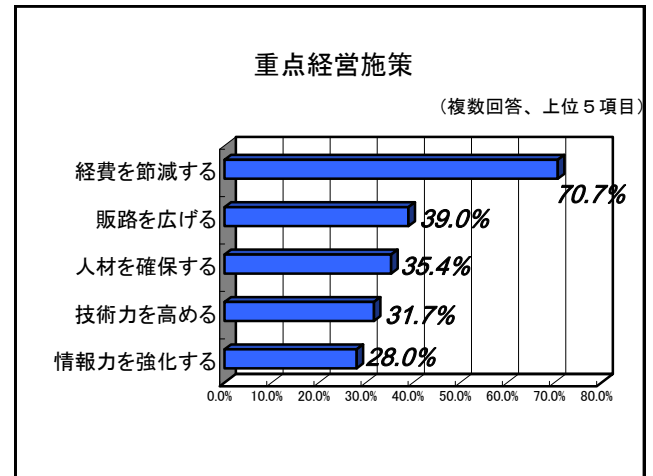
対前期比でみると、受注残DIは+20.4ポイントの28.1、施工高DIは+15.3ポイントの25.6、請負価格DIは▲8.5ポイントの▲8.5、材料価格DIは+2.9ポイントの18.3、在庫DIは+6.0ポイントの8.6、資金繰りDIは▲11.0ポイントの▲11.0、設備状況DIは+1.4ポイントの▲2.5となりました。今後は、受注残DI・施工高DI・請負価格DI・材料価格DI・在庫DI・資金繰りDI・設備状況DIすべてで低下を見込んでいます。

経営課題・重点施策



【経営課題】

経営上の問題点として挙げられたのは「同業者間の競争の激化」が42.7%と最も多く、次いで「利幅の縮小」36.6%、「売上の停滞・減少」29.3%、「人手不足」22.0%、「材料価格の上昇」19.5%の順番となりました。

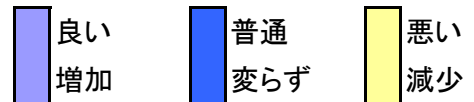
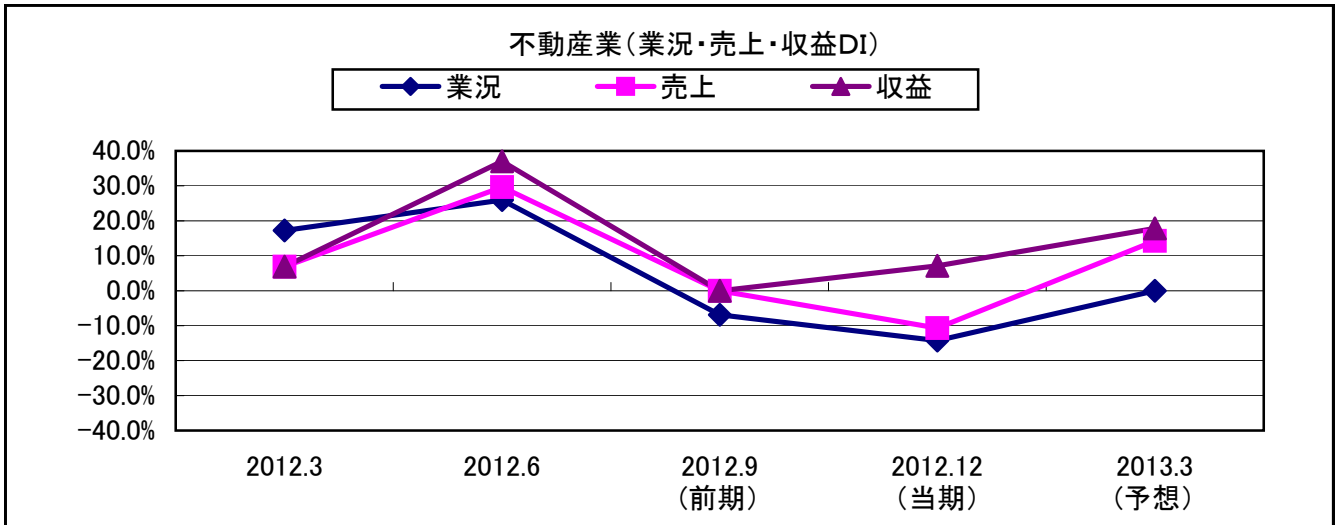


【重点施策】

当面の重点経営施策として挙げられたのは「経費を節減する」が70.7%と最も多く、次いで「販路を広げる」39.0%、「人材を確保する」35.4%、「技術力を高める」31.7%、「情報力を強化する」28.0%の順番となりました。

不動産業

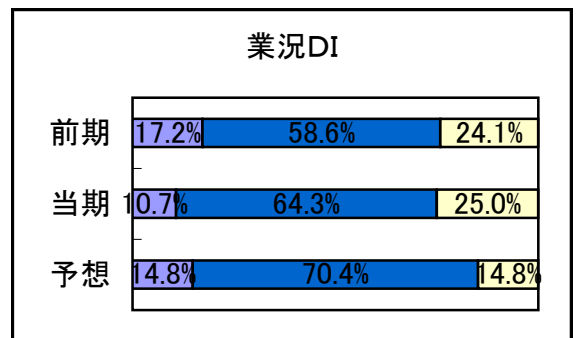
主要DI推移



主要DI構成

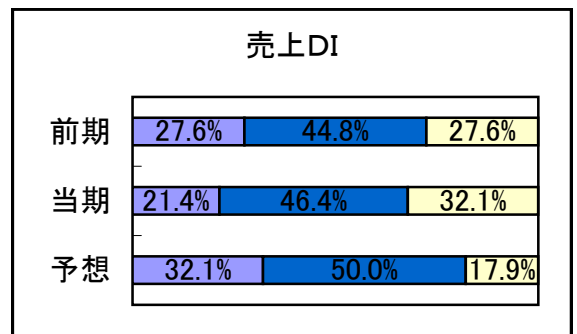
【業況DI】

業況DIは、対前期比▲7.4ポイントの▲14.3と2期連続の悪化となりました。消費税増税に伴う住宅ニーズの高まりを注視している一方で、優良物件に対する仕入価格の高騰や増税後の反動による需要の落ち込みを懸念している先も多いことから景況感の改善とまでは至らなかったようです。一方、今後の業況DIは、対当期比+14.3ポイントの0.0と大幅な改善を見込んでいます。



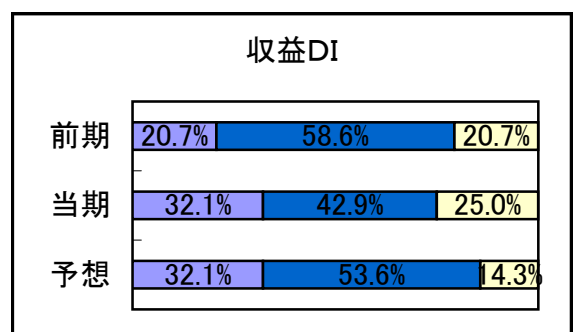
【売上DI】

売上DIは、対前期比▲10.7ポイントの▲10.7となりました。販売価格DIは上昇したものの、依然として低い水準となっており、昨年同期比売上額判断DIも低下したことから2期連続の悪化となったようです。一方、今後の売上DIは、対当期比+25.0ポイントの14.3と大幅な改善を見込んでいます。

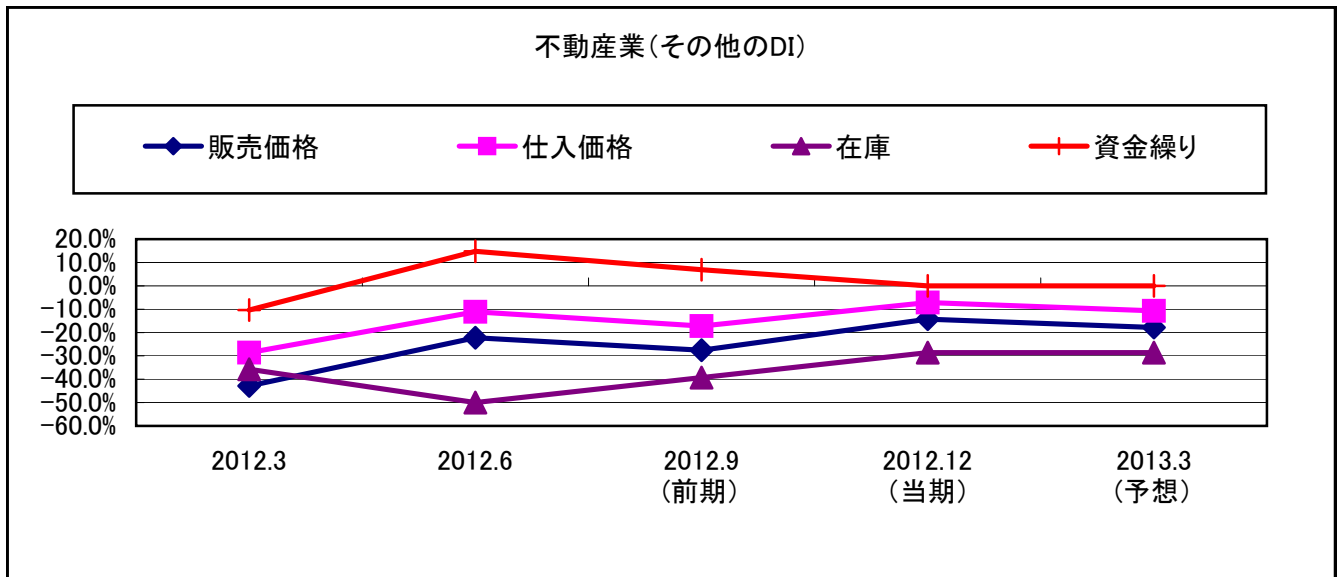


【収益DI】

収益DIは、対前期比+7.1ポイントの7.1となりました。売上DIの大幅低下及び仕入価格DIの上昇といったマインドを下げる要因がある中、優良物件へのニーズの高まりもあってか収益DIは改善となったようです。今後の収益DIは、対当期比+10.8ポイントの17.9と大幅な改善を見込んでいます。



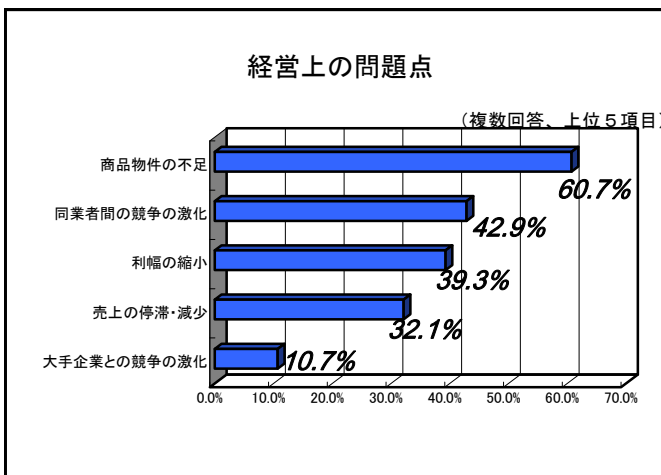
その他のDI推移



【その他のDI】

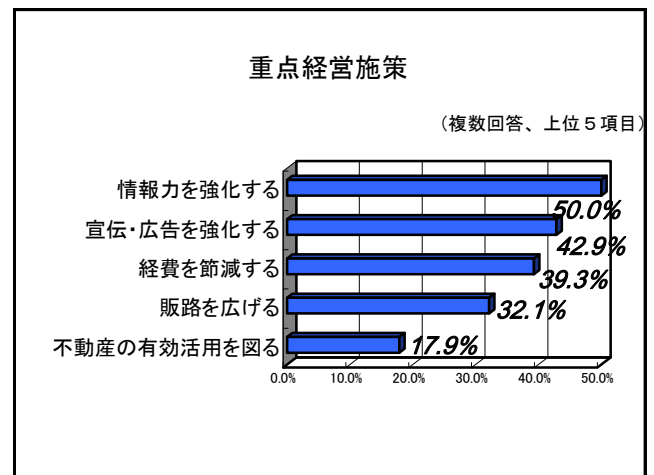
対前期比でみると、販売価格DIは+13.3ポイントの▲14.3、仕入価格DIは+10.1ポイントの▲7.1、在庫DIは+10.7ポイントの▲28.6、資金繰りDIは▲6.9ポイントの0.0となりました。今後は、在庫DI・資金繰りDIでは横ばい、販売価格DI・仕入価格DIでは低下を見込んでいます。

経営課題・重点施策



【経営課題】

経営上の問題点として挙げられたのは「商品物件の不足」が60.7%と最も多く、次いで「同業者間の競争の激化」42.9%、「利幅の縮小」39.3%、「売上の停滞・減少」32.1%、「大手企業との競争の激化」10.7%の順番となりました。



【重点施策】

当面の重点経営施策として挙げられたのは「情報力を強化する」が50.0%と最も多く、次いで「宣伝・広告を強化する」42.9%、「経費を節減する」39.3%、「販路を広げる」32.1%、「不動産の有効活用を図る」17.9%の順番となりました。

特別調査「平成25年の経営見通し」

【問1】

Q. 平成25年の日本の景気をどのように見通していますか？

選択肢(全項目)	
やや悪い	43.2%
悪い	22.9%
普通	22.6%
やや良い	7.0%
非常に悪い	3.3%
良い	1.0%
非常に良い	0.0%

【問2】

Q. 平成25年の貴社の業況(景気)をどのように見通していますか？

選択肢(全項目)	
普通	44.9%
やや悪い	30.9%
やや良い	12.6%
悪い	6.3%
良い	3.3%
非常に悪い	2.0%
非常に良い	0.0%

【問3】

Q. 平成25年において貴社の売上額の伸び率は、平成24年に比べておおよそどの位になると見通していますか？

選択肢(全項目)	
変わらない	38.3%
10%未満の増加	24.0%
10%未満の減少	18.0%
10～19%の増加	8.7%
10～19%の減少	4.7%
20～29%の減少	3.0%
20～29%の増加	1.7%
30%以上の増加	1.0%
30%以上の減少	0.7%

【問4】

Q. 貴社の業況が上向く転換点はいつ頃になると見通していますか？

選択肢(全項目)	
すでに上向いている	21.0%
6ヶ月以内	18.9%
2年後	14.1%
1年後	12.7%
業況改善の見通しは立たない	12.4%
3年後	11.0%
3年超	10.0%

【問5】

Q. 平成25年以降を見通した場合、どのような経済的・社会的事象が経営に影響を及ぼすと考えますか？
(複数回答)

選択肢(全項目)	
消費税率の引上げ	77.1%
国内政局の混迷	47.2%
原材料価格・資源価格の高騰	33.9%
円高の長期継続	18.9%
廃業・倒産の増加	17.6%
企業海外移転による国内産業空洞化	13.3%
電力供給不安の長期化	13.0%
アジア諸国との関係悪化	9.0%
海外経済の減速	6.6%
その他	0.7%

【本レポートに関するお問合せ先】

平塚信用金庫 総合企画部
平塚市紅谷町11-19
(TEL 0463-24-3039)

